

口をいふ。水深からずして百石積ほどの小舟
を出入せしめ得る小港である。

カハシリシユウホウ 河尻秀助 河北郡川
尻眞宗東派性光寺の住職。越中四方町淨光寺
に生まれ、明治十二年入つて性光寺を嗣いだ。
乘月院慧月の門に學び、十五年三等學師、三
十二年擬講、三十五年大學寮副監、四十年副
講に任じ、四十四年十月一日七十一歳を以て
寂。開真院と贈られた。

カハシリジヨウ 川尻城 珠洲郡正院郷の
川尻に在つた。能登誌に、『正院川尻村といふ
に、稻荷山の要害として城跡あり。城主は温井
兵庫とて、島山家臣也。越後勢の爲に落
城すと。礎石・垣等其儘残り。』とある。

カハタ 皮太 ↓エタ 穢多。
カハタ 川田 鹿島郡三階良川保に屬する
部落。
カハダ 河田 コウダ 能美郡德橋郷に屬す
る部落。

カハダイチジュウロウ 河田市十郎 御小
將で、祿千二百石を受けたが、正保四年御茶
堂鷹栖松雲に恨があつて、江戸邸に自殺し
た。↓シユドウ 衆道

カハダシヨウ 河田庄 康正二年造内裏段
錢並國役引付に、『參貫七百九十文結城左近將
監加賀國河田庄段錢』とある。河田庄は石川
郡河内庄の誤であらう。之を能美郡德橋郷の
河田に當てんとする説もあるが、結城氏であ
るから河内庄であらねばならぬ。

カハダタチ 河田館 コウダ 能美郡河田の
内の小字。

カハダニ 川谷 石川郡吉次山北方の溪谷
で、その水は白見谷のそれに合し、淺野川に
入る。

カハチ 河内 石川郡湯涌郷に屬する部落。

カハチ 河内 河北郡河村郷に屬する部落。

カハチ 河内 羽咋郡鉦打郷に屬する部落。

邑名は熊木川の水源なるより起る。

カハチ 河内 鳳至郡南北郷に屬する部落。

カハチ 河内 鳳至郡中野郷に屬する部
落。枝村に堂平がある。能登名跡誌に、『河
内村近し。高洲の嶽の東平にある村也。』と記
する。明治中北河内と改めた。

カハチ 河内 能美郡串茶屋なる佐見屋藩
七方抱への遊女。天保八年三月廿八日その遊
客同郡安宅森下屋孫太郎と情死を遂げた。

カハチガハ 河内川 ↓トギガハ 富來川。

カハチシヨウ 河内庄 ↓カウチシヨウ
河内庄。

カハチダキ 河内瀧 鳳至郡北河内にある。
一名を三段瀧といひ、その第一段を布引瀧、
第二段を飛沫瀧、第三段を魚住瀧といふ。

カハチダケ 河内岳 鳳至郡河内部落の西
方に在つて、羽咋郡の境に跨る。高さ三九九
米。地質輝石安山岩。

カハチダニ 河内谷 河北郡と越中西礪波
郡との境にある順尾山の北方、石川郡内にあ
る溪谷で、その水曲・河内の部落を流れ、淺
野川の上流となる。

カハチホソダニ 河内細谷 羽咋郡藤瀬の
藤津比古神社藏永祿二年九月廿五日再建棟札
の裏書に、『奉加御人數之事云々、壹依河内細
谷より』とある。河内細谷は後の同郡河内村
であらう。

カハチアサミチ 河波有道 棕園と號し、
通稱藤太郎、文政五年十一月を以て生まれた。

父の名は有之。家世々加賀藩の老臣本多氏に
仕へた。有道初め明倫堂に學んだが、十七歳
主家の書物取調係に任ぜられ、餘暇書籍を借
覽することを許されるに及んで諸子百家に涉
り、頗る得る所があつた。弘化四年本多政通
の近侍となり、次いで侍讀を兼ね、安政五年
本多政均に従ひて江戸に赴き、村田藏六の門
に蘭學を學び、明治元年明倫堂助教に任ぜら
れ、又自ら梅塲塾を開きて諸生に教へ、廢藩の
後は各種學校に教鞭を取り、學生を導き、傍
ら實業を鼓吹し、二十三年九月十四日歿した。
年六十九。

カハニシ 川西 鳳至郡下野郷に屬する
部落。棚替・櫻木・若桑などの枝村がある。能
登名跡誌に、『家數所々に別れてある村也。川
の西ゆゑ呼ぶよし。此村に棚貝の藥師とて、
昔は大寺にて其跡あり。其外に谷内の妙義な
どとてあり。又櫻木といふ所もあり。古寺の
跡也。』とある。

カハバタマチ 川端町 金澤の舊町名。元
祿九年の地子町肝煎裁許附に、卯辰袋町の次
に川端町・橋爪町とある。後にこの町名は絶
えたが、今の小川町であらう。享和三年幕府
へ進達の金澤町名附に、茶屋町の次に織部町・
河端町とある河端町もこれに同じい。今淺野
川の上流左岸に川端町といふのがあるが、そ
れは別だ。

カハヒ 河合 能美郡山上郷に屬する部落。
白山川と大日川との落合ふ所であるから名づ
ける。

カハヒイシ 河合石 能美郡河合から産出
し、九谷燒の原料に供するもの。石英粗面岩
の分解しながら岩脈をなすものである。

カハヒケンド 河合見度 河北郡津幡の俳
人。見風の子。通稱久右衛門。安永二年二月
廿二日齡廿四を以て歿した。

カハヒケンフウ 河合見風 河北郡津幡の
俳人。後金澤に住した。通稱理右衛門。俳諧
を希因に學び、枝紅・枝鶴・雪鬼窟・花中仙・南
物離・白達摩等の數號があり、一たびも行脚
はしなかつたが、風交全國に互つて最も廣か
つた。天明三年四月一日歿、享年七十三。そ
の追善句集に、白達摩見風追善集がある。

カハヒサイカク 河合才覺 河合虎春の子
である。通稱藤左衛門。石川郡坪野村に住し
た。その地に今才覺屋敷の名が遺つてゐる。
子孫慶長中金澤に出で町人となり、坪野屋源
兵衛と稱した。

カハヒスケユキ 河合祐之 通稱余所吉・内
匠・清左衛門・十郎左衛門。半兵衛祐明の養
子。天保五年遺知三百石を襲ぎ、御馬廻に班
し、八年御郡奉行・改作方當分加となり、九年
本役に進み、十年改作奉行に轉じ、弘化四年
頭並に陞り、四年大坂に祇役して勝手方を管
し、五年馬廻番頭に轉じ改作奉行に復したが、
その年旨に忤うて職を免せられること一年に
して復前職となり、安政三年先手物頭、四年
勝手方に任じ、幾くもなく持筒頭となり、文
久元年八月二日四十九歳で病歿した。河合録
の好著がある。

カハヒソウザブロウ 河合惣三郎 又宗三
郎に作る。越前の人。前田利長に守山に仕へ、
元和の役利常に從うて町口に槍功があり、知
行五百石、足輕頭に至り、寛文六年十月歿。
子孫世々藩に仕へる。

カハヒタケノスケ 河合竹之助 論は廣元。